

# 親子の 新たな物語

## 精子提供と 家族のかたち

# 精子提供者 登録する機関を

精子提供は、新しい局面に入っている。

皆さまのお手にあふスマートフォンで「精子提供者」という人を検索してみただけ、あんなに多く提供がいのが分かれる。また提供がいの紹介が昔からあるのは、何れも友人や知り合いをたづねて提供してもらうというパターン。でも、今は、

元順天堂大医学部非常勤助教(病院管理学)

## 入沢 仁美さん



SNSを介した精子提供について語る入沢仁美さん。「個人的には、ここでしか手に入られなかったものなにもないので活用を否定しません。大事なものはチェックできる体制を整えることです」

入沢仁美さん、1988年生まれ、兵庫県出身。専門は病院管理。元順天堂大医学部非常勤助教。名古屋大付属病院で、SNSを通じて提供している人や、提供を受けた人を取り囲む調査を企画。享年37歳。

すべに受け取らぬよ。

「どうもかといって、提供するという性にはSNSの(合縁交縁、サイト)などで選んで、お互いが納得すれば話が始まります。それで、日時と場所を決めて待ち合う。男性側が受けるのが射撃して、精子が入った容器を手渡すというのが一般的です。私は、そういうSNSを通じて知り合った、欲しい側と受け取る側を取り囲む調査をしました。分かることは、ほとんどの始まりから提供を受けるまで全般的に「無垢の状態である」ということです。具体的には精子提供の仕事もそう。提供後も連絡を取り合ふのかどうか、生まれながらにも関係するかどうか、結局のところ、「そいつたてー」は是非いじやない(など)と指摘してくれるような紹介者が

皆さまは、精子を提供する男性がどんな人たちかになってほしい。

話を聞いてみて、自分なりに社会的要をしっかりと考え、活動している人になりたいです。そういう人は単に種にもなる人があが、欲しいと思う人が先行していかないかなって、事前の面談も聞くんです。自分なりの基準を満たなければ、はっきりと断ります。

その一方で、まだ若い人ともいます。提供したいという動機に考えていく人が意外と多いんです。が、自願と欲が強いと言います。例えば、「結婚に失敗しだけれ

どで孫を残したい」とか、「運ばれたら不幸を逃がしたい」とか、本人たちは本気で、そうして女性側で「おまえレベの精子たっぷり」とネット上のやり取りがたまにみられます。私の方から言うと、ちょっと私の心がざんねん。このように、SNSもそれは前回のようまたたいて後者のような人たちが交り合っている。その中で、くりに使いたくない。でも断る人、前向きに種にも提供が断られ、後に流れたいということもあっています。

そして、(仲介者のない)個人間のやり取りにあっては人間関係がはげすむと生まれてくるんです。が、そのことをおぼえたいです。

「精子提供者」が強い「主権者提供」とお考えですか。例えば、依頼者が「望まぬ性別の精子を依頼者が求められない」という場合です。種がこればかりです。が、実際に使えなくなるケースがある。依頼者が強くて、提供者の男性に「妊娠率を高めるために性交渉を求めるともある。子ども

● 会員制交流サイト(SNS)を介した精子提供 医療機関が生殖補助医療で精子を提供する対象は、異性夫婦のみが原則。レズビアンカップルなどの性的少数者の人たちが、結婚せずに子どもが欲しい人たちにとって、SNSは受け皿の一つになっている。医療機関が提供する精子は匿名の第三者のもののため、提供者情報を知りたい異性夫婦の中には、SNSで探す人もいます。やりとりは個人間の合意に基づく。今の日本には精子提供のあり方について定めた法律はないため、違法ではない。

入沢仁美さんは、今年15日、養女となつてきました。養女の名前は「道族の承認された子猫ちゃん」です。